

三重県知事のインドネシア訪問（５月６日）の概要について

一見知事は、介護人材をはじめとする人材確保を進めるため、インドネシアを訪問しました。５月５日（月）にインドネシアに到着し、５月６日（火）には、インドネシア共和国保健省の大臣と面談し、面談後にMOUの変更締結を行うとともに、保健省医療福祉大学第３ジャカルタ校において、介護人材セミナーを開催しました。また、移住労働者保護省の大臣と面談し、同省としては対外国地方政府では初のMOU締結の実現に向けた最終の意見交換を行い、その結果をROD (Record of Discussion) ※に署名しました。

※ROD…協議及びやりとりの全容を要約する協議記録やその合意文書

【５月６日（火）】

1 保健省（大臣との面談・意見交換、修正覚書（MOU）締結）

（１）場 所 インドネシア保健省（ジャカルタ市内）

（２）出席者

（相手方）保健大臣 ブディ・グナディン・サディキン

保健医療人材担当副大臣（総局長） ユリ・ファリアンティ ほか

（同席者）在インドネシア日本国大使館

一等書記官 田中 一徹

二等書記官 大道 拓馬

（三重県）知事 一見 勝之 ほか

（議員団）議長 稲垣 昭義 ほか

（介護・看護団） 三重県老人福祉施設協会 ほか

（３）概 要

- ① インドネシア保健大臣と面談し、令和６年７月にインドネシア保健省との間で締結した介護・看護分野の人材育成に関する覚書に基づく今後の連携体制等について意見交換を行いました。
- ② インドネシア保健大臣からは、「本日の意見交換を踏まえ、昨年結んだMOUの取組を更に進めていきたい」と発言があるなど、本県とインドネシア両者の介護人材の送出し・受入れの拡大に意欲を示されました。
- ③ 一見知事からは、「令和７年度は外国人介護人材の受入れに係る予算を大幅に拡充した」と述べるなど、今後の介護人材確保と介護・看護分野連携の促進に期待を示しました。
- ④ インドネシア保健大臣との意見交換をふまえ、MOUの内容をより発展させるために追加の修正等を行うこととなり、保健大臣との面談後に、知事とユリ総局長の間でMOU変更に係る締結式を行いました。インドネシアから三重県へ人材を毎年優先的に送り出すことなどの文言を追記した変更となりました。



(意見交換の様子①)



(意見交換の様子②)



(記念品交換)



(意見交換後の記念撮影)



(MOU変更締結式①)



(MOU変更締結式②)

2 介護人材セミナー

(1) 場 所 保健省医療福祉大学第3ジャカルタ校ボールルーム（ブカシ市内）

(2) 出席者

(相手方) インドネシア保健省 保健医療人材担当副大臣（総局長）

ユリ・ファリアンティ ほか

(聴講者) 保健省医療福祉大学の学生約 250 人

(同席者) 在インドネシア日本国大使館

一等書記官 田中 一徹

二等書記官 大道 拓馬

(三重県) 知事 一見 勝之 ほか

(介護・看護団) 三重県老人福祉施設協会 ほか

(3) プログラム

13 時～ 開会・出席者紹介・国歌斉唱

13 時 15 分～ 第3ジャカルタ校長挨拶

13 時 25 分～ セミナー開催＜第一部＞

①三重県の紹介

説明者：知事

②日本の介護保険サービス

説明者：長寿介護課 井谷課長

14 時 20 分～ ユリ総局長挨拶

14 時 35 分～ 写真撮影

知事・総局長退場

14 時 40 分～ セミナー開催＜第二部＞

③JICA介護人材能力強化プロジェクトの紹介

説明者：インドネシアジャカルタ事務所 岡村次長

④三重県の介護施設での就労

説明者：三重県福祉施設協会 服部会長

※質疑応答あり

16 時 閉会

(4) 概 要

- ① インドネシアの介護人材を確保するため、インドネシア保健省、大学関係者及び学生等を対象として、三重県や三重県の介護施設等における就労の魅力をPRする介護人材セミナーを開催し、医療福祉大学の学生約 250 人が参加しました。
- ② 一見知事から、三重県の地勢や観光、食などのPRの他、三重県内のハラル対応のお店やインドネシア出身の介護職員の動画紹介など、参加者へのプレゼンテーションが行われました。
- ③ 続いて、長寿介護課長から日本の介護保険サービスについて、三重県老人福祉

施設協会の服部会長から三重県の介護施設での就労について、参加者へのプレゼンテーションが行われました。

- ④ セミナー退場後、一見知事とユリ総局長が地元マスコミ 8 社及び日本のマスコミのぶら下がり取材に応じ、知事が変更後のMOUの内容等について説明しました。
- ⑤ セミナー会場内には、三重県PRブースと三重県介護施設PRブースを設置し、写真展示やプロモーション動画等の配信を行いました。また、介護団として参加の 8 施設が、三重県の介護施設で就労する魅力の説明や学生等の質問に答える個別相談を行い、「介護福祉士の資格を取得するのにどのような支援があるのか」「働くうえで宗教上の配慮があるか」などの質疑がありました。



(知事の講演の様子)



(ユリ総局長との記念撮影)



(取材対応の様子)



(PRブースの様子)

3 移住労働者保護省（大臣との面談・意見交換、RODの署名）

（１）場 所 移住労働者保護省（ジャカルタ市内）

（２）出席者

（相手方） 移住労働者保護省

大臣 アブドゥル カディル カルディン

副大臣 クリスティナ アルヤニ

総局長 ドゥイ セティアワン スサント ほか

（同席者） 在インドネシア日本国大使館

一等書記官 田中 一徹

二等書記官 大道 拓馬

（三重県） 知事 一見 勝之 ほか

（３）概 要

- ① インドネシア人特定技能労働者を所管する移住労働者保護省を訪問し、県内企業が求める一定の専門性・技能を有する人材の確保につなげるため、インドネシア人材の育成・送出し・受入れに関するMOU締結に向け最終の意見交換を行い、RODに署名することで合意しました。
- ② カディル大臣からは、「移住労働者保護省は就労者の保護を目的に設置された新たな省である。日本とインドネシアが友好的につながるようさまざまな取組を進めていきたい。三重県が求める労働者を育成していきたい。」との発言がありました。
- ③ スサント総局長からは、「今回、RODの署名が確定したので、次に速やかにMOUの実現につなげていきたい。」との発言がありました。
- ④ 一見知事からは、「労働者保護はとても大切である。看護や介護等の分野で三重県で働く人たちを守ることが三重県の仕事である。今後、真摯に継続的、友好的な協力関係を築いていきたい。」との発言がありました。



（意見交換の様子）



（記念撮影）

左から２番目がカディル大臣、３番目が一見知事、４番目がクリスティナ副大臣、５番目がスサント総局長